

「初めての対面授業を終えて」

久保 祥子

(北海道:砂川市立病院訪問看護ステーション よつば)

約1年前に訪問看護に異動になり感じたことは、「患者さんって退院したらご飯を食べられるようになるんだ。」ということでした。そして、このような服を好んで着て、このような景色を見ながら暮らしているという、その人自身に関心を寄せる楽しさを感じました。また、慣れ親しんだ食事の味や家の雰囲気、病気や障害を持つ人にこんなにも安らぎや笑顔を与えるということを感じ、在宅療養を支えたいと思うようになりました。そのように浮立つ気持ちで仕事をしている時に、徳島大学で在宅ケア認定看護師教育課程(B課程)が開講されると上司から聞き、入学するに至りました。

入学して、北海道から徳島県に引っ越しするのを楽しみにしていましたが、新型コロナウイルスの影響もあり、e-Learning やオンラインを利用した講義から始まりました。毎日 PC とにらめっこしながら孤独に授業を受け、ようやく対面授業を受けることができました。同じフィールドで働く人たちとグループワークを行い、孤独から解放され楽しく授業を受けることができました。そして、同じ日本でも地域により違いがあったり、似ている部分があったりすることを認識し、改めて自分の地域のこと、地域に根差すとはどういうことかを考えるきっかけになりました。沢山の課題を達成できるか心配になりますが、先生方や研修生の仲間が温かく打ち解けてくれて、すごくうれしく感じました。何とか頑張っていけそうです。



訪問時に利用者様を囲んで(右:久保 祥子研修生)